



充実のラインアップを徹底検証 ADLで最高のポータブル・オーディオを

例えばスマートフォンをプレーヤーとすれば、ケーブルを介してポータブル・アンプに接続し、さらにケーブルを通じてイヤホンやヘッドフォンを繋げる。このようにポータブル・オーディオは、いくつかのパーツで構成されていると考えることができる。それぞれのパーツが担う役割は大きく、音質を追求するなら全てをクオリティの高い製品で揃えたい。そこで候補の筆頭に挙げられるのが ADL だ。ここで改めてその多様なラインアップをご紹介します、ADL を用いたシステムの魅力をお伝えしたい。

Text by 野村ケンジ Kenji Nomura

Photo by 田代法生

ADL H128

ポータブル・ヘッドフォン ¥OPEN
*カラーはシルバー、ブラック、ネイビーの3色を用意

Specifications

●型式：密閉ダイナミック型 ●ドライバー口径：40mm 特殊高性能マグネット ●感度：98dB SPL/mW ●周波数帯域：20Hz~20kHz ●最大許容入力：200mW ●インピーダンス：68Ω ●イヤホンパッド素材：レザー ●調圧：約4.5N ●コネクター：非磁性ロジウムメッキ仕様のα (Alpha) mini-XLR ●交換プラグ：F63-S(G) ●コード(着脱式)：片出し3.0m / IHP-35X (1.3m ストレート) ●質量：約280g (ヘッドフォンのみ)



ADL A1

Android 端末対応
ポータブル・アンプ
¥49,800 (税別)

Specifications

●USBチップ：VIA VT1736 ●DACチップ：High-performance CIRRUS LOGIC CS4392K ●対応サンプリング周波数：PCM→44.1/48/88.2/96/176.4/192, DSD→2.8/5.6MHz ●ヘッドフォンアンプ：Texas Instrument TPA6130A2 ●オペアンプ：TI-LME49726 ●ヘッドフォン出力レベル：70mW(12Ω), 80mW(16Ω), 65mW(32Ω), 38mW(56Ω), 9mW(300Ω) ●入力端子：3.5mm ステレオミニジャック×1、光デジタル×1、USB(Aタイプ)×1、USB(MINI Bタイプ)×1 ●出力端子：3.5mm ステレオミニジャック×2、光デジタル×1 ●対応端末：Xperia Z2、GALAXY S5のAndroid 端末など ●サイズ：68W×16.5H×118Dmm ●質量：約150g



ADL EH008

イヤホン ¥19,800

Specifications

●型式：ダイナミック型 ●ドライバー口径：8mm (中低域用)、5.8mm (高域用) ●感度：100±3dB SPL ●周波数帯域：20Hz~20kHz ●インピーダンス：19Ω ●コネクター：24k金メッキステレオ3.5mm 型プラグ ●コード：α-OFC 素材ケーブル(1.3m) ●質量：約15g (ケーブル含む) ●取り扱い：フルテック(株)

ADL X1

iOS 端末対応ポータブル・アンプ
¥39,800 (税別)

Specifications

●DACチップ：High-performance ESS-ESS9023 ●対応サンプリング周波数：PCM→44.1/48/88.2/96/176.4/192 ●ヘッドフォンアンプ：直接駆動 with 1.8V compatible shutdown ●オペアンプ：TI-LMV832 Dual 3.3 MHz EMI-Hardened Low-Power CMOS ●ヘッドフォン出力レベル：34mW(12Ω), 60mW(16Ω), 82mW(32Ω), 86mW(56Ω), 36mW(300Ω), 19mW(600Ω) ●入力端子：3.5mm ステレオミニジャック×1、USB(Aタイプ)×1、USB(MINI Bタイプ)×1 ●出力端子：3.5mm ステレオミニジャック×2、光デジタル×1 ●サイズ：68W×16.5H×118Dmm ●質量：約142g

DETAILS

■ ケーブルにもクオリティを求める



製品名	対応モデル/端子
iHP-35S	SENNHEISER HD650用 6.3mm標準
iHP-35S-XLR	SENNHEISER HD650用 バランス
iHP-35H/iHP-35Hx	SENNHEISER HD800用 6.3mm標準
iHP-35H-XLR/iHP-35Hx-XLR	SENNHEISER HD800用 バランス
iHP-35ML	SHURE SRH1840/1540/1440用 6.3mm標準
iHP-35ML-XLR	SHURE SRH1840/1540/1440用 バランス
iHP-35B	3.5mmステレオミニ(L型/ストレート)
iHP-35	3.5mmステレオミニ(両端ストレート)
iHP-35M	3.5mmステレオミニ to MMCX
iHP-35X	3.5mmステレオミニ to ミニXLR-F

アクセサリまで統一する 他にはない楽しみ方が可能

フルテックの姉妹ブランドだけあって、ケーブル類も得意のジャンルといえる。特に、ヘッドフォン、イヤフォンのリケーブルiHP-35シリーズは充実したラインアップを取り揃えており、カナル型イヤフォンで数多く使われているMMCXからゼンハイザーHD800/HD650用、AKG Q701用、beats pro用、シュアSRH1540用(コネクターはMMCXだがスリーブ形状が特殊なので別製品となっている)と、豊富なバリエーションを用意する。また、バランス接続用も用意されている。さらなる高音質を追求することも可能だ。一方、Lightning-USBケーブル、USB A-USBミニ端子などデジタル系ケーブルのラインアップも便利。

(野村)



iOS端末対応のX1とAndroid端末対応のA1をラインアップしており、すぐにハイクオリティなポータブルオーディオを始められるのは大きな魅力となる



H128は3色のカラーを揃えるなど、ポータブル用途において重要なデザイン面にも配慮されている

ポータブル環境に注力する ブランド展開の軌跡を追う

フルテックの展開するADLは、どちらかというとコストパフォーマンスの高さをアピールする製品群を取り揃えているようだが、実際のラインアップを眺めてみると、現在はポータブルに注力しブランド展開を行っていることが分かる。そこで今回は、新たに登場した上級ヘッドフォンH128をメインに、ポタアンやUSB DAC、ケーブル類など、ラインアップ全体に改めてフォーカスしてみたいと思う。

USB DACやUSBケーブルなど、スタートこそPCオーディオ系の製品が多かったADLだが、ポタアンが登場から、ポータブル・オーディオ向けのアイテムがメインストリームとなり始める。その最初の製品であるCRUISEは、カーボンとアルミのハイブリッドボディや、α(アルファ)の文字をモチーフとした(横から見ると)3角形デザインなど他に類の無い独自のスタイルが、いまでも根強い人気を集めている。しかしながら、ADL製ポタアンの注目株といえば、iOSデジタル接続に対応するX1だろう。こ

ちらはPCとの接続も可能となっており、192kHz/24bit対応のポータブルUSB DACとしても機能するため、これ1台で屋外、室内の両方で利用することが可能だ。続いて、Android対応のA1も登場。こちらは、PC接続時に5.6MHzまでのDSDファイルが再生可能なほか光デジタル入力も備えており、デジタルオーディオプレーヤーとのデジタル接続が可能など、さらに幅広い活用方法が用意されている。

音楽を楽しめるサウンドが最新ヘッドフォンでさらに向上

続いて、本命であるヘッドフォンも手がけることとなる。その最初のモデルとなったのがH118だ。ADLのアイデンティティであるαをモチーフにした3角形のハウジングと折りたたみ可能なヘッドバンドの機構は、スマートな外観とキヤリング性能の高さを両立。それでいて肝心の音質も高いクオリティを確保しており、脚色のない、ありのままをストレートに伝えようとするADLらしき溢れるサウンドキヤクターは大きな注目を集めた。

そして、今度はカナル型イヤフォンにも着手。ダイナミック型

ライバーをデュアルで搭載し、カーボンファイバー製ハウジングでボディ強化を図ったEH008は、ピュアでストレートなサウンドと、デザインコンセプトの両面でADLらしさをアピールしている。さらに今秋、ADLブランドの最新モデルとして、上級ヘッドフォンH128が登場。流用パーツがほとんどない、まったくの新規モデルだ。40mm口径のドライバーも、専用ユニットが搭載されている。同梱される交換ケーブルや変換プラグが、同社ならではの高品位なものである点も注目だ。

実際のサウンドも、さらに一歩踏み出したイメージだ。音を素直に再現するだけでなく、音楽が持つ本来のパワーを漏らさず拾い上げ、そのまま送り出してくれている。おかげで、演奏がとても躍動的に、グルーブ感高く聴こえ、ヴォーカルも普段よりずいぶん力が入り込められているように感じる。音楽の魅力がさらに高まってくるので、聴いていてとても楽しい。これこそが、ADLブランドが追い求める、進化の先にあるサウンドなのだろう。この先どのような製品が登場するのか、どのようなサウンドを聴かせてくれるのか、大いに期待したくなるブランドだ。